

主体的・対話的で深い学びの実現に向かう授業づくり

～新聞を活用しながら、思考力・活用力・表現力を育む指導の工夫～

阿賀野市立水原小学校

1 学校の概要

水原小学校は、水原駅から東に約 1km、五頭連峰を東に望み、22 学級児童数 555 名の学校である。

学校周辺には、白鳥の飛来地として全国的に有名な瓢湖がある。毎年 10 月中旬に第一陣が訪れ、2 月下旬まで滞在する。11 月下旬ころのピーク時には、5000 羽を超える白鳥が飛来する。

当校では、「ふるさと水原について知り、ふるさと水原を語り、ふるさと水原を誇る子ども」の育成を目指している。全学年で瓢湖を核とした学習活動に取り組むことをはじめ、地域の「人・もの・こと」とかかわり合いながら、様々な教育活動に取り組んでいる。

学校を取り巻く家庭や地域は学校教育に大変協力的である。学習参観等の学校行事への保護者の参加も多い(500 人以上)。

2 NIE 実践のねらい

(1) 主題設定の理由

本校の子どもたちは、やるべき課題に熱心に取り組み、基礎的・基本的な学力を身に付けてきている。しかし、問題文で問われている意図をしっかりと読み取ることの難しさを感じている子どもが見られる。また、既習したことを活用しながら解決方法を考えたり、友達と対話しながら物事を考えたりする力に弱さが見られる。

そこで、自分の考えを書いたり話したりする際に、既習を活用したり、友達と対話したりしながら関連付けて考える力・比較する力などの思考力を育てていく必要があると考え、主題を設定した。

(2) 目指す子どもの姿

上記の当校の実態から、目指す子どもの姿と子どもたちに身に付けさせたい力を以下のように設定した。

目指す子どもの姿

- 新しい学習課題に対して、既習の内容を進んで活用し、主体的に解決する子ども
- 友達との対話を通して、様々な視点から考えを捉え直し、深める子ども

子どもたちに身に付けさせたい力

- ・思考力：資料や既習内容から根拠を明確にして、自分の考えをもつ力。
- ・活用力：資料や既習内容、対話を通して、自分の考えをよりよいものにしていく力。
- ・表現力：自分の考えを、決められた分量でまとめたり、分かりやすく話したりする力。

3 本年度の実践の概要

(1) 新聞を活用した授業づくり

新聞を活用した授業づくりでは、NIEの3分野のうち、「新聞活用学習」に焦点を当てて授業を構想することとした。

また、新聞を活用する場面を授業の前段と後段に位置づけ、単元や授業の目標を達成するために、どちらかの場面で新聞を活用したらよいのか考え、実践した。

【新聞を活用する場面】

①授業前段に児童の思考にズレを生み出す問題提起

※「ズレ」 ⇒ 「なぜだろう?」「どうしてなんだろう?」

「知りたいな!」「できるようにになりたいな!」

- ・新聞記事等から児童に1つの事実を捉えさせ、そのわけや賛成・反対を尋ねる。
- ・どうしてそのような考えをもったのか、そのわけを記事から記述する。
- ・児童同士で考えやその理由を対話させる。

②授業後段で児童の理解を確かにする事実提示場面の設定

- ・授業後段に新聞記事を提示し、友達との対話を通して考えたことを確かめたり、考えを深めたりする。

(2) 日常場面での新聞活用(NIEタイムの取組)

週に1回、朝学習の時間をNIEタイムとして位置付けた。他校の実践を参考にしたり、各学年の実態に合わせてワークシートを作成したりして活動に取り組んだ。

また、高学年では、理想科学工業から届く「よみときワークシート」を毎週活用した。

※(理想科学工業の印刷機を使用している学校が無料で登録できるシステムがあり、登録すると、週に1回、NIEのワークシートがメールで届く。)

【各学年の取組】

学年 1 学年 「カタカナを見つけよう」

活動の概要

- ・子どもが興味をもちそうな記事を教師が選ぶ。
- ・子どもたちは、記事を見ながらカタカナを見つける。
- ・見つけたカタカナに丸を付ける。

成果

- 新聞に興味をもつことができた。
- 「カタカナをたくさん見つけたい!」という意欲をもち、最後まで新聞記事を見ながら楽しく活動することができた。

学年 2 学年 「見出し当てクイズをしよう」

活動の概要

- ・子どもが興味をもちそうな記事を教師が選ぶ。
- ・子どもたちは、写真や記事を見たり読んだりしながら、見出しを予想する。
- ・予想した見出しと、本当の見出しを比べ、見出しの分かりやすさに気付かせる。

成果

- クイズにしたことで、興味をもって新聞を読む姿が見られた。
- 見出しを予想するために、記事を何度も読み返す姿や、繰り返し出てくるキーワードに線を引く姿が見られた。

学年 3 学年 「お気に入りの記事を紹介しよう」

活動の概要

- ・子どもが興味をもちそうな記事を教師が選ぶ。
- ・子どもたちは、記事の見出しや写真を見て、興味をもった記事を選ぶ。
- ・なぜその記事を選んだのか理由を書かせたり、記事の本文を読んで感想を書かせたりする。
- ・異なる記事を選んだ子ども同士で小グループを作り、自分のお気に入りの記事を紹介する。

成果

- 楽しみながら新聞に親しむことができた。
- 記事を読み、自分の感想をまとめる姿がたくさん見られた。

学年 4 学年 「トップ3はなんだろう？」

活動の概要

- ・子ども新聞のランキングを取り上げた記事を教師が選ぶ。
- ・子どもの1位～3位と、大人の1位～3位を隠す。
- ・4位～10位までに入っているものや記事の内容からトップ3を予想する。
- ・正解を発表した後、子どもと大人のトップ3を比較し、感想を伝え合う。

成果

- 記事の中でもランキングを取り上げたことで、興味をもたせることができた。
- 予想する段階で、ランキングに挙がっているものや記事の内容から推測して考えようとする姿が見られた。

学年

5・6 学年 「気になる記事を選ぼう」

活動の概要

- ・理想科学工業から届く、「よみときワークシート」を使用する。
- ・4つの記事から興味をもった記事を選ばせる。
- ・5W1Hを読み解き、ワークシートに記述する。
- ・記事を読んだ感想を、所定の文字数でまとめる。

成果

- 新しいニュースが取り上げられているため、興味をもって取り組めた。
- 5W1Hを正しく読んだり、自分の感想をまとめたりする姿が見られた。

(3) 新聞に親しむための環境整備

新聞閲覧コーナーを設ける。場所は児童がよく通る玄関近くの廊下と教室とし、その日の新聞を机に並べた。また、バックナンバーを教室後方のロッカーに入れ、自由に閲覧できるようにした。新聞は翌日に入れ替えるようにした。

新聞閲覧コーナー「白鳥 Cafe」

児童玄関近くに新聞を閲覧するコーナーを設置した。職員が、毎朝入れ替え、その日の新聞を読めるようにした。新聞を並べて置いたことで、それぞれの新聞の一面を比べたり、見出しを読み比べたりすることができた。また、教室の後方にバックナンバーを置いたことで、休み時間に新聞を読んだり、学習で調べたりする姿が見られた。



(4) 新聞記者の方による出前授業

3～6年生を対象に、新聞記者の方から、新聞の構成や新聞の特色などを教えていただいた。見出しやリード文を読むことで記事の大まかな内容を理解できることを教えていただいた。また、記事の写真や内容から見出しを当てるクイズを通して、読み手を引き付ける工夫をしていることに気付くことができた。



4 授業における実践の詳細

(1)学年 5 学年

(2)教科・単元

社会科「工業生産を支える人々」

(3)授業の実際

本単元は、自動車を生産する人々が生産を高める工夫や努力をしていることや、日本で工業がさかんな地域の様子を具体的に調べながら日本の工業の特色や課題を学んでいく。本時は、単元の導入部で、単元を貫く学習課題を設定する場面である。

本時では、燃料電池車の普及には大きな壁があることが掲載された新聞記事を活用した。あまりなじみのない車ではあるが、環境に配慮した車であり、これからの自動車づくりを考えるうえで大切なことが掲載されていることから、単元を貫く学習課題が成立するのではないかと考えた。

①児童の考えを確かにするための新聞記事の活用

本時の導入部では、燃料電池車が水素を充填している場面の写真を提示した。何をしている場面か問うと、子どもたちは「ガソリンを入れている。」「電気を充電しているのではないか。」と既存の知識から予想を立てた。

燃料電池車という車に燃料の水素を充填している場面であることを伝え、燃料電池車の説明をした。説明を聞いた子どもたちは、「環境にやさしい車だ。」と認識した。そこで、2017 年度の新車販売台数を表にした資料を提示し、燃料電池車が普及していない事実を伝えた。すると、「なぜ環境にやさしいのに、普及しないのだろう。」「もっと普及すればよいのに。」とつぶやきがあり、学習課題「なぜ燃料電池車は少ないのだろう。」を設定した。

子どもたちは既存の知識や前時の学習内容から予想を立て、グループで伝え合った。子どもの予想には、「燃費が悪いのではないか。」「燃料電池車をつくるのは難しいのではないか。」「水素を入れる場所を見たことがない。燃料を入れる場所がないから、買わないのではないか。」などがあった。



子どもたちが考えた予想を確かめるために、新聞記事を提示した。記事を配付すると、予想したことが合っているか、真剣に読む姿が見られた。予想したことに関連する言葉を見つけ出し、線を引きながら読むことで、「やっぱり予想した通りだ!」「予想していたことと違うけど、燃料電池車が普及するのは大変だ!」と、学びを確かにすることができた。

(4) 成果と課題

- 予想を確かにするために新聞記事を扱ったことで、目的意識をもって読むことができた。
- 新聞記事を提示する前に、子どもが考えた予想を交流させたことで、自分にとって必要な情報を見つけ出す読み方ができた。
- △文章内に難しい言葉が多く出てきたため、教師が一通り読んだり、解説したりする必要があった。



5 成果

○NIE タイムを継続して取り組むことで、子どもたちにとって新聞がより身近なものになった。

各学年が工夫した取組を考え、継続して実践してきたことで、子どもたちにとって新聞がより身近なものになった。どの取組でも、子どもたちが意欲的に活動することができている。それは、教師が子どもたちが興味をもちそうな記事を探したり、クイズ形式にするなど記事にひと手間かけたりしたからだと考える。また、高学年では同じワークシートを継続して取り組んだため、速く記事を読めるようになったり、内容を正しく理解したりする力が高まってきている。やはり、教師がアンテナを張りながら新聞を読むことが大切であると実感した。また、同じ取組を継続して行うことも、子どもの読む力を高めるために有効である。

△新聞を活用する授業実践では、新聞を活用することが目的になってはならない。

新聞は各教科・単元の目標を達成するためのツールである。よって、教科・単元の目標を達成するために、有効に新聞を活用しなければならない。新聞活用を目的とせず、学びを支える学習材として有効に活用していく必要がある。そのためには、どの教科のどの単元で活用すると、より効果的か考えていくことが大切であると感じた。

今年度の実践から得た成果と課題を、2年次の研究に生かしていきたい。そして、子どもたちが、より新聞を身近に感じられるように、様々な取組を進めていきたい。